

-----  
■ さろん | Mail News 2018/7/21 | #119 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

-----  
哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。

みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。

会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.119 2018年7月21日(土)=====

さ | ろ | ん |  
— | — | —

M | a | i | l | N | e | w | s |  
— | — | — | — | — | — | —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

-----  
INDEX

- | 【おしらせ】(7月期) ゆるカフェ/今月はおやすみ
- | 【1】コラム/エッセイ
- |     ◇『自分の意思か運命か?』
- | 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています
- | 【2】コトバをハーバリウムする
- | 【3】さろんアーカイブの遊歩道
- | 【4】ふくろう広場(会からのお知らせ)
- | 編集後記

CONTENTS

-----  
【おしらせ】

(7月期) ゆるカフェ  
今月はおやすみ

通称『ゆるカフェ』。地味に、ゆるく、今月は休業です。

来月をお楽しみに。

少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。

ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

次回は

8月下旬 19:15 - 21:30 頃

代々木近辺の喫茶店（申込者にご案内）

参加費 100 円（別途、注文した飲食費実費をお支払いください）

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

（幹事：せりざわ）

---

## 【1】コラム／エッセイ

### ▽【自分の意思か運命か？】

#### ▽【自分の意思か運命か？】 一生

「君の臓腑を食べたい」の中に、主人公春樹が臓腑の病気で余命半年を宣告された同級生桜良と対話する次のような場面がある\*1。「うちのクラスの学級委員はやはり、彼女の前の恋人だった。僕は雨の中で思ったことを正直に言った。僕と一緒にいるよりは、例えば彼のように君を本気で想っている人の方がいい。僕らは、あの日に病院で偶然に出会ったに過ぎないんだから。言うと、僕は彼女に叱られた。『違うよ。偶然じゃない。私達は、皆、自分で選んでここに来たの。君と私がクラスが一緒だったのも、あの日病院にいたのも、偶然じゃない。運命なんかでもない。君が今までしてきた選択と、私が今までしてきた選択が、私達を会わせたの。私達は、自分の意思で出会ったんだよ』」。

大切な人との出会いは自分の意思なのか。それとも運命なのか。5月の弊会哲学カフェでは、運命について対話し、考えた。対話から幾つかの主張を挙げる。「運命を使うのはその出来事を含む人生を自分が思う美しいストーリーにしたいからである」。「それは、意味の空白に耐えられないということである」。「付き合っている人から別の人へと乗り換えるとき、その別の人を運命の人と呼ぶ。自分の人生の方向が大きく変わるとき重大なときに運命を使う。それは自信がないときであり一種の言い訳である」。「その人を運命の人と呼ぶことは、自分を超越る意思にサポートしてもらい、背中を押してもらおうという心情である」。

自分の人生を想うとき、特別に大切な人ができたとすれば、非常に幸せなことである。余命半年の女子高校生は「私達は、自分の意思で出会ったんだよ」と語り、主体性や自己効力感を示唆する。一方で、哲学カフェ参加者は「その人を運命の人と呼ぶことは自分を超越る意思にサポートしてもらい、背中を押してもらおうという心情である」と考え、自分を超越る意思の存在を指摘する。いずれも正体は周囲との関係性から生じる何らかの傾向性\*2に起因するのかもしれないが、判然とはしない。半面、両者には共通点がある。自分が大切と考える出来事には何らかの意味がある。自分の人生には意味がある。なぜか人はそう考えてしまうのではないか。ならば、それはなぜか。次の問

いが浮かび上がる。

\*1：住野よる著：「君の臓腑を食べたい」

\*2：コトバンク（デジタル大辞泉の解説）：(1) 倫理学で、広義には性向の意。

(2) 心理学で、ある一定の刺激に対して一定の反応を示す有機体の性向の意。

---

## 【ご案内】

---

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

---

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【堀越】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、

「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。

さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、  
どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。

みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com（担当：堀越）

---

## 【2】

---

コトバをハーバリウムする #33（や）

---

本のコトバから

---

一時間後、ぼくは別の穴から体を引きずり上げていた。今度の穴は、たるんだ合板に鋸で歪んだ形にあげられたものだ。そこで初めての《ロー・テク》に出会った。

「だいじょうぶ」

と言いながらモリイはぼくの肩に軽く触れ、

「ただの“犬”さ。やあ、“犬”」

モリイのテーブルどめ電灯からの細い光芒の中、むこうは隻眼でこちらを見つめ、ゆっくりと、部厚く灰色がかった舌を突き出して、巨大な犬歯を舐める。ドーベルマンからの歯芽移植を、どうやったら低技術とみなして片づけてしまえるのだろうか。免疫抑制剤は木から生え出てくる類の代物ではないのだから。

——「記憶屋ジョニイ」(ウィリアム・ギブスン) (『クローム襲撃』所収)

---

歌のコトバから

---

So, so you think you can tell

Heaven from Hell

Blue skies from pain

それで君は、自分なら見分けられると思っているんだね

天国と地獄とを

青空と苦痛とを

——ピンク・フロイド『Wish You Were Here』(作詞：ロジャー・ウォーターズ)

---

【3】

---

さろんアーカイブの遊歩道 #27 (楠)

---

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第55回

テーマ： 「寛容」

開催日： 2015年3月21日

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2016/12/salon\\_giji\\_55.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2016/12/salon_giji_55.pdf)

ネットの掲示板を覗くと、特定の意見に対して苛烈な反論・罵倒が書き込まれていることがあります。また実生活では友人同士の口論の場面に立ち会って仲裁せざるを得なくなった経験があります。僕自身他人の発言に対して怒りを感じることはありますが、極力表に出さないよう、寛容であるように心がけてはいます。それはこの会でも言及されている通り、「寛容により、葛藤が少なくなると楽である」からです。家族であれ恋人であれ、他人同士である以上、意見は異なるものだと言わざるを得ません。その一つ一つに対して怒りを感じてはととても社会生活を送ることはできないからです。

インターネットは誰もが瞬時に多用な情報や意見に触れることを可能にしました。しかし人間が空

間的・時間的な制約から自由になれない以上、個人はそれぞれの興味・関心に沿ったコミュニティの内側で価値観を形成しがちになります。それは異なる価値観を持った他者への不寛容に直結する危うさを孕んでいます。

こうした時代だからこそ「寛容」という言葉を通して自身の態度や行動を一人一人が見直すことがコミュニケーションにおける喫緊の課題だと思えてなりません。

---

#### 【4】

ふくろう広場（会からのお知らせ）

---

##### 1) さろん 2018-2019 事業計画と予算案が可決

さろんの事業年度は、9月から翌年の8月です。「〇周年」の9月が年度の切り替わりになります。来期の計画の最大の変更点が、会費の取り扱い方針の変更でした。

スタッフが納めている年会費と別に、参加者から、例会では300円/人を運営費として頂いています。

300円/人×平均9人/回×年12回=¥32,400円

運営費としてこれ+αのお金を預かっているので、これをどう会の充実に役立てるかを具体的に話し合いました。

できるだけ参加者に還元できるように、と。

そのため、来期の予算案には執行率90%という数値目標も取り入れました。

すぐには効果が見えづらいと思いますが、ぜひ長い目でさろんを見守り、かつ育ててもらえればとおもいます。

##### 2) さろんクリパ2018! 12月22日(土)

「えっ、なにももうクリパの話? いっくら何でも気が早いんじゃない?」「いいじゃん、毎年楽しいんだからさあ」「そうね、まあいいか。今年も絶対に行こう〜っと!」

というわけで、早くも動き出した今年のクリパ。会場を早目に予約完了して開催日が決定しました!

今年の実施予定日は12/22(土)です。

今から予定表のこの日にチェックマークを付けておいて下さい!

(さろんクリパ2018 実行委員長 堀越)

##### 3) 哲学ツーリズム@滋賀・近江八幡 カフェフィロ山本さん企画

カフェフィロの山本さんが昨年の哲学プラクティス連絡会で発表された「哲学ツーリズム」の試み。

その試験版の開催が先週7/15(日)にあり、さろんからスタッフ有志が参加して来ました。

今回は滋賀県・近江八幡、琵琶湖のなかに浮かぶ沖島に出かける旅でした。

哲学ツーリズムってなに? どんな旅だったの?

そんな疑問にお答えすべく、参加者の感想をご紹介します。

今回の結果を踏まえ、もうすこしアレンジを加えて、

みなさんと一緒に実施できるチャンスを探りたいと思います。

\*\*\*\*\*

### 【哲学ツーリズムって？】

毎年大勢のひとが旅行にでかけています。

「夏休みどこにでかけるの？」は、この時期の時候の挨拶みたいになっています。

でも旅行者の多さに比べると、計画を立てたり出発するときに、自分がどんな問いを抱えて旅に出ようとしているのかを考えてみる機会は少ない——そんな気がします。

旅に出るとき、〈わたし〉の中にどんな問いが眠っているか。

その問いと向き合うためにはどこへ行って、どんなことをしたらいいのか。

旅に出かけることで問いがどんな風に更新されるのか。旅を通して考えることに徹底的に寄り添ってみました。

考えることと体験することを密接につなげて、「旅すること」そのものの価値も再考してみるような試み。哲学ツーリズムと呼ばれるような、そんな旅の可能性について実践してきました。

### ▼感想

頭の中で考えるだけでは確証を持ちづらいことでも、実際にある土地に行って見聞きし感じるというプロセスを通して、実感を伴った意見を熟成させることができました。大変意義深いイベントでした。真夏の開催は避けた方がいいと思います。笑

### ▼感想

真夏の炎天下でやるもんじゃない。体験を通して確信に至りました(笑)。でもそれを差し引いても、旅×哲学の面白さ、相性の良さが感じられました。見る食べる遊ぶ(るるぶ)に留まらないで、

考えたり、黙ったり、景色の移り変わりを眺めたり。その合間合間で、問いを見つめなおして更新するための対話があって。五感と体と頭を目一杯使って旅に浸ることができました。

哲学ツーリズムにはサイトスペシフィックな側面もあると思うので、旅行先やそこでのアクティビティの数だけ、さまざまなバリエーションがこれから出てきそうでワクワクしました。真夏の炎天下だけは全力で避けましょう。

### ▼感想

旅という非日常に密かに忍び込んでいる日常を意識しながら、非日常と日常の境界を考え続ける。そもそも非日常と日常を明確に線引きしたり界面を定義したりすることなどできるのであろうか。

重層的な自己認識の中に混在する諸要素を分離することの意義や手法について、炎天下の蒸し風呂環境下という苦行に近い行程の中で、思いを巡らせる。

きっと東京に戻った僕はこの苦行を成し遂げたことを誇りに思う日が来ることを確信している。

### ▼感想

哲学ツーリズムで積極的に考える時間を設けて誰かと旅を共有することは、知らない風景や旅先で自分が受け取っているものを記憶に残すことを助けてくれて、より旅が印象的なものになると思いました。

炎天下の中、涼しいカフェでかき氷を一口食べた時、生きていることを実感しました。

※「サイト・スペシフィック」とは、

この時にこの場でしかできないというミニマルなモチベーションの中にある可能性が、新たな場

を顕在化してくれる最も有効な手段のことである。それは地球規模の環境問題や、都市や生活空間を考えることから、歴史的、政治的、文化的な場の成り立ちまで含まれる。

(『アートレス——マイノリティとしての現代美術』、フィルムアート社、2001年)

---

## 編集後記

メールニュース第119号をお届けします。

こんにちは(梟)です。ホウ。

暑い日が続いておりますね。みなさまお加減はいかがでしょうか。  
先週哲学ツーリズムがあったので発行が遅れましたことお詫びいたします。  
それにしても、琵琶湖も祇園祭の京都も、暑かったです。  
暑さがいかにメンタルに影響を及ぼすかは、参加者の感想からも明らかですね。  
来月号では、いよいよ2018年下期のさろんの事業カレンダーを一斉にご案内できそうです。  
9月の8周年を筆頭に、気合の入った催事が目白押しです。  
ぜひいらしてくださいね！  
みなさま素敵な夏をお過ごしください♪

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。

編集: (梟)

さろん | Mail News 2018/7/21

⇒次号 (8月1日発行予定)

---

さろん Mail News 第119号 / 2018年7月21日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- 
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。  
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
  - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。  
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
  - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku/>
  - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>

「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>

「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>

「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>

「あるばか学校」 blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."

---